

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 香月 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

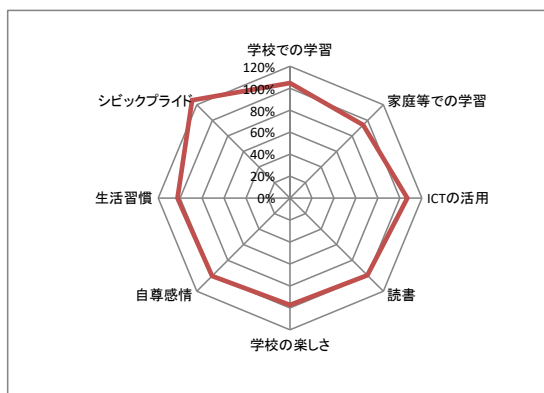
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・評価の観点別では、知識及び技能の問題は高く、思考・判断・表現の問題が低い。 ・問題形式別では、記述式の問題において無回答率が高く、正答率も他の問題形式と比較して低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・漢字を正しく書くこと（知識・技能：言葉の特徴や使い方に関する事項） ・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと（知識・技能：我が国の言語文化に関する事項）	
	努力が必要な問題	・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと（思考・判断・表現：書くこと） ・観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えること（思考・判断・表現：読むこと）	
数学	全体的な傾向や特徴など	・評価の観点別では、知識及び技能の問題は高く、思考・判断・表現の問題が低い。 ・問題形式別では、記述式の問題において無回答率が高く、正答率も他の問題形式と比較して低い。 ・無回答率が他の教科と比較して高い傾向がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・自然数の意味を理解していること（知識・技能：A 数と式） ・累積度数の自然数の意味を理解していること（知識・技能：D データの活用）	
	努力が必要な問題	・ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること（思考・判断・表現：B 図形） ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること（思考・判断・表現：C 関数）	
英語	全体的な傾向や特徴など	・評価の観点別でも、学習指導要領の領域別でも、正答率はほとんど変わらない。 ・問題形式別でも正答率はほとんど変わらないが、特に短答式の問題における無回答率が高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むこと（知識・技能：読むこと） ・目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ること（思考・判断・表現：聞くこと）	
	努力が必要な問題	・情報を正確に聞き取ること（知識・技能：聞くこと） ・社会的な話題について、短い文章の要点を捉えること（思考・判断・表現：読むこと）	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「先生はあなたのよいところを認めてくれているか」「先生は分かるまで教えてくれているか」との問いに対して、肯定的な回答が90%以上で高いが、「自分にはよいところがあるか」との問いには肯定的な回答した割合が低い。 ・地域の行事に参加している生徒が多く、地域のために何かしたいと考えている生徒が多い。 ・「ICT機器を使うのは勉強の役に立つ」と考える生徒の割合が高かった。今後は、ICT機器を活用した授業改善や個に応じた指導の場面等でICT機器を活用する方法を考えていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・知識・技能の定着に向けた取組の継続（無回答率の減少，知識・技能の定着による思考力・表現力の向上）
- ・思考力や表現力の向上を目指した話し合う活動や書く活動及び読書の時間の充実。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・計画的な家庭学習の実現に向けて、勉強方法の提案や放課後自習教室の充実を図る。
- ・ご家庭ではこれまでと同様に、「早寝・早起き・朝ごはん」等の安定した生活リズムづくりをお願いします。